

## 令和3年度 自己評価書

### 1. 勝山こども園の教育保育目標

#### ○教育・保育方針

子ども達を取り巻く環境や子ども達の家庭環境を支援し、子どもの状況や発達過程を踏まえ、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う。

#### ○保育・教育目標

適切な環境の中で養護と教育が一体となった保育を行い、心身ともにたくましく心豊かな幼児の育成を目指す。

#### ○めざす子ども像

- ・明るく健康な子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・やりとげる子ども
- ・考える子ども
- ・のびのびと自分の思いを表現する子ども

### 2. 本年度の重点目標

#### ○保育者の援助や環境構成を通して、子ども達の伝え合いの姿を育む。

##### 《めざす伝え合いの姿》

- ・自分が感じたことや考えたことを言葉や身振りで表現する喜びや表現したことを相手にわかってもらえた喜びを感じる。
- ・相手の話を聞いて相手の思いに気づく。
- ・人と気持ちが通じ合うことの喜びや心地よさを感じる。

### 3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	全体的な計画を基に指導案の立案を行い保育実践をした。反省や振り返りを行い改善に努めた。	3
行事	コロナ禍の為、人数や時間の制限を行うなど工夫を重ねてできる限り行った。行事の様子を写真で張り出し保護者へ伝えている。	3
組織・運営	当番や係の仕事の分担をわかりやすくし、職員同士が協力し合って業務を行うことができるようにしている。	3
学級経営	クラスの子どもの興味に沿った計画を立て、環境構成を行い、発達を促す保育を行った。	3
特別支援教育	佐藤セミナーで講師の指導を受け、園内研修も行い子ども理解を積み重ね、適切な援助ができるように職員連携を持ち行った。	3
安全管理・保健指導	不審者訓練、火災避難訓練、災害訓練を行い園児にも危険なことについて知らせている。	3
研修（資質向上）	コロナ禍の為、リモート研修が多かったができるだけ参加し自己研鑽ができるようにした。復命の機会が少なく反省する。	3
情報提供・保護者・地域との連携	毎日、玄関ボードに全クラスの様子を掲示し給食献立のカラー写真展示も始めている。個別面談も定期的に行った。コロナ禍の為、地域連携はできなかった。	3
小学校との接続・連携	コロナ禍の為1回中止となったが、園児は交流会を楽しみにする姿が見られている。顔を合わさなくてもできる交流を工夫している。来年度は職員同士の連携を計画したい。	3
子育て支援	コロナ禍の為未就園児交流会は計画通り行うことができなかった。園保護者へは話しやすい関係づくりに努めている。	3
食育の推進（給食）	畑づくり、収穫、調理など食に関する活動を取り入れている。園児は給食を楽しみにし、偏食の改善もできている。	3
食事の提供（調理）	アレルギー対応、1歳児の刻み食、個に合わせた配膳など多岐にわたり配慮を行い調理することができている。	4

### 4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
勝山地区研究	今までの研究内容をまとめ、発表する事ができた。研究した子どもの背景を捉えるアセスメントの考え方を保育に取り入れている。	4

## 5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

園の教育・保育目標を全職員が共通理解をし、園の全体的な計画（教育保育目標）に基づき取り組んでいる。クラス担任は、月週案を立案し計画的に保育を行い、毎月保育の振り返りを行い、自身の反省もし、その中から、課題となる部分を次の月のねらいにし、子ども達の成長を支えてきた。また、給食調理員もミーティングを毎日行い、共通理解と改善に努めている。職員の自己評価では保育者間で気軽に話し合う事ができること、楽しくやりがいのある職場であるために良好な人間関係に努める項目での評価が高く、日頃から組織としてコミュニケーションを図りながら保育・給食を行うことができている事がわかる。特に保育では、会議上の話し合いだけではなく日頃から子どもの話をし、共に悩んだり改善点を見つけたりすることを繰り返している。また、学年を超えて関わりが持てるよう、異年齢児交流も意図的に行っている。互いに親しみを感じ、年長児への憧れの気持ちに繋がっている。

「佐藤セミナー」（支援の必要な子どもへの援助やクラス運営についてのセミナー）を受け、支援の必要な子どもに関する園独自の園内研も行い、職員の自己研鑽に努め、保育に生かせるよう取り組んでいる。次年度も引き続き取り組んでいきたい。

保護者アンケートの中では、「子どもは園生活を楽しんでいる」「保育士は子どもを理解し、成長を見守り、適切に保育している」の項目は95%以上は良いであった。

「気軽に相談できる」も95%以上であったが、5%の保護者は相談できにくいと捉えている事が分かったので、話しやすい雰囲気を作るよう努力していきたい。保護者に対しては、玄関に大型ホワイトボードを置き、毎日各クラスの様子を書いて張り出したり、行事は写真入で提示したりし、保育内容を理解してもらうよう努めた。安全管理については、園舎の特徴によるものや老朽化、駐車場がないことなどの問題点がある。正門には、飛び出しや不審者侵入防止の為、鍵を取り付けた。また、不審者訓練、災害訓練を計画的に行い、子ども達にも身を守る方法を知らせている。

給食においては、アレルギー対応や1歳児の刻み食や支援のいる子どもへの盛り付け工夫など、保育と連携して行っている。給食を楽しむ子どもが多く、偏食も少しずつ改善できている。

今年度の重点目標については、研究のまとめを行い、研究部員以外にも発表を行い園内研修を行った。伝え合いの姿を育むために、今後も、背景を捉えた子どもの読み取りを深くし数人の保育者で話し合う事でよりよい援助を見つけ実践していきたい。

## 6. 評価結果を受けての具体的改善方法等

保護者アンケートでの前年度の課題であった、「保育士と相談できにくい」の項目はやや上昇したが、まだできにくいと捉えている保護者もいる。今年度はコロナ禍の為、家庭訪問・懇談・参観日が中止となり大変残念であった。意思疎通を図るためには最初の家庭訪問が大切であると感じたので、来年度は全員家庭訪問を行うようにしたい。また、保護者への発信の在り方も今後検討していきたい。子どもの気持ちの読み取りや遊びの具体的場面をお便りやホワイトボードで発信し、遊びを通して何を学んでいるかをわかりやすく保護者に提示できればと考えている。また、今年度3月から、給食の献立のカラー印刷展示を毎日行っている。興味を持ち、高評価も得ている。コロナ禍であってもできる保護者への発信の方法を考えていきたいと思う。

次年度も「佐藤セミナー」を継続し、支援の必要な子どもの発達の読み取りを丁寧に行い、指導を受けながら、一人ひとりに合った支援を行っていく。

今後も、職員全員が、保育目標のもと子どもを温かく見守りながら、子ども一人一人の興味関心に沿った環境構成を行い、子どもの主体性を伸ばしていく保育を行うよう努力していきたい。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である